

家庭での仕事の分担を考えよう

小学校第5学年 家庭科

(人権課題)

女性

指導事例の説明

「男だから」、「女だから」といった性別役割分担意識を見直す動きが広まっており、家庭での仕事を分担する必要性の理解が深まってきています。しかし、未だに女性に関する人権課題として「家庭の仕事の偏り」が挙げられています。そこで、本事例では、個人の能力や希望に応じた生き方を尊重する考え方を育てながら、性別役割分担意識にとらわれず、よりよい判断を行いながら家事を協力して行うことができるようにすることをねらいとしています。授業の際には、多様な家族形態があることを踏まえた配慮が必要です。

※本事例は、小学校学習指導要領家庭科「A 家族・家庭生活」における「(1) 自分の成長と家族・家庭生活」のA及び「(2) 家庭生活と仕事」のA、イにあたります。

本時の目標

- ・ 家庭には、家庭生活を支える仕事があり、互いに協力し分担する必要があることについて理解し、自分ができる生活を支える家庭の仕事の計画を考えることができる。

人権教育の視点

- ・ 家庭の仕事はいつ誰がやっているのか調べて振り返るとともに、国の統計資料を確認することで、家庭の仕事に不平等が多いことや家族で仕事を分担する大切さに気付くことができる。(知性)
- ・ 個人の能力や希望を尊重して、自分ができる家事について考え、性別役割分担意識にとらわれずに判断することができる。(判断力)

生かしたい児童

※本事例における「生かしたい児童」の文末にある【知性】、【判断力】は、「人権教育の視点」との一貫性をもたせるとい趣旨のもと記載しています。指導案作成の際に記載の必要はありません。

- ・ 児童Aは集団での学習においても、自分の考えをしっかりとつとめることができる。家事分担の平等な状態についての考えなどを、話し合う活動の際にクラス全体に広め、他の児童が学習内容への理解を深めるきっかけとしたい。【知性】
- ・ 児童Bは家事に対する関心が高く、積極的に課題に取り組もうとする。取り組むべき自分の役割を考える際に、意見を取り上げて全体に共有することで、偏見をもたず、自分はどのようなことができるか考え、判断できるようにしたい。【判断力】

人権教育の目標を踏まえた次の発達段階につなげるポイント

本時では、家事の分担をする際に、個人の能力や希望を尊重して自分ができる家事を考え、家族全員で家庭生活を支えることの大切さに気付かせることを目指します。その上で、中学生の目標にある「人権の意義及びその尊重と共存の重要性に気付く」ことにつなげるため、資料①と資料②の読み取りをとおして、課題を見出したり、男女共同参画の歴史から互いに尊重し合い共存を図ることの重要性に気付かせたりすることが大切です。

また、自分にできることを考える活動を取り入れることで、人権が尊重される社会を築いていこうとする意欲と態度の育成につなげます。

展開

このような特性のある児童生徒、いませんか？
【集中力が持続しないため、活動への関心を保つことが難しい】

特別支援教育の視点を踏まえた支援

	学習活動	・指導上の留意点 ◎人権教育上の配慮	資料・準備物
導入	1 自分の家庭で誰がどんな家庭の仕事をしているかを振り返る。 2 本時のめあてを知る。 自分ができる家庭の仕事の実践計画を立てよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に調査したアンケートを基に、児童が取り組んでいる家事について振り返る。(※アンケート例参照) ・アンケートで出た家事も含めて、「食べることに関係すること」、「着ることに関係すること」、「住まいのことに関係すること」、「そのほか」の四つに分類する。 ・既習事項を本時の内容に生かしていくことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート ・ワークシート
展開	3 家事分担の状況について、資料を見ながら話し合う。 (1)グループで考えを出し合う。 (2)家事の分担における課題を学級全体で共有する。 4 自分ができる家庭の仕事を考え、計画を立てる。 (1)個人で考える。 (2)計画した仕事の内容について、グループで話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ◎「男は仕事、女は家事」という女性に対する差別があったこと、その差別により不利益を受けた(受ける)方がいたという事実を押さえる。(知性) ◎家事の分担について、自分にも無意識の思い込みがあるかもしれないと捉え、性別関係なく家族で協力することの必要性について、自分事として考えられるようにする。 ・各家庭によって家事の内容は様々であることに触れる。 ◎女性の社会進出のために「男女雇用機会均等法」、「男女共同参画社会基本法」等、法や制度が整備されてきたことだけでなく、一人一人の意識の向上や行動によって差別解消につながっていくことを理解できるようにする。 ◎家庭の仕事を改めて振り返り、その中から自分一人でも継続して取り組めそうな仕事を考えさせる。(判断力) ・仕事の方法や手順について、自分なりの工夫を考えられるようにする。 ・グループ内で検討したりアドバイスをし合ったりすることで、さらに計画を充実させられるようにする。 ◎お互いの考えの良いところを認め合えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料① ・拡大掲示物(大型モニター) ・資料②
ふりかえり	5 本時の学習をまとめ、振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時で計画した内容を実践することを伝える。 ・家庭における協力の大切さを確認し、意欲的に実践できるようにする。 	

学習の流れを揭示し、視覚的な理解をしやすいように配慮することで、見通しをもつことができます。

文字やイラストの「家事カード」を準備し、クイズ形式で分類ゲームなどを取り入れることで、関心を高めることが期待できます。

四つの分類を、視覚的に分かりやすい図や板書で示すと視覚的に分かりやすくなります。

グループで話し合う内容や注意点を、板書やカードで視覚的に分かりやすくしたり、いつでも確かめられるようにしたりすると分かりやすくなります。

自分ができる仕事に○やシールなどの印を付けて、考えたり意思を伝えたりしやすくしましょう。

それぞれの意見をモニターやタブレット、ホワイトボードなどに視覚的に分かりやすく示して共有し、互いに認め合う時間をもちましょう。

枠は、共感的理解及び明るい展望について示しています。

5年 家庭科 アンケート例

年 組 番 氏名 ()

- 家の中の仕事にはどんなものがあるか、それをだれがやっているのか、例を参考に書き出してみましょう。

例：料理をつくる。(母)

めあて

1. 家の中の仕事を仲間分けしてみましょう。

「食べること」に関係すること	「着ること」に関係すること
「住まいのこと」に関係すること	「そのほか」

2. 資料をもとに、家の中の仕事について考えて書きましょう。

3. 家の中の仕事で、自分が工夫できそうな仕事をさがしてみましょう。

取り組んだら家の人にサインをもらおう。

仕事	工夫すること	サイン

※友達からのアドバイスは、赤色で書き足しましょう。

4. ふりかえりをしましょう。

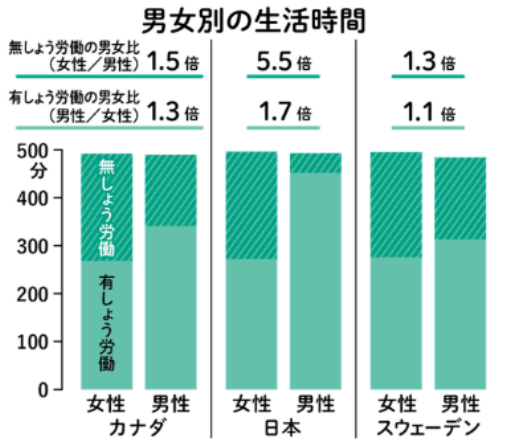
- ・思いこみによる仕事のかたよりについてどう思ったかな？
- ・自分ができる家庭の仕事について考えられたかな？

5. 仕事をやってみて、どんな発見や気づきがありましたか。ふりかえりをしましょう。
(5. については、後日記入します。)

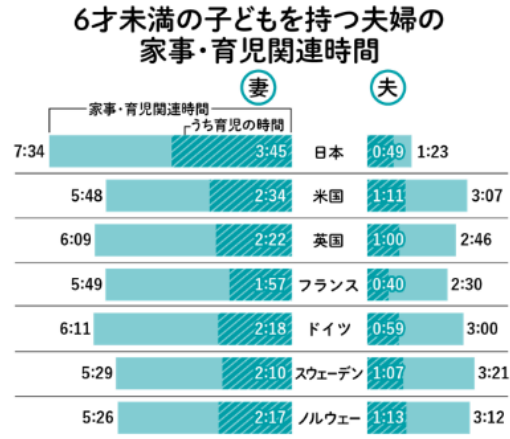


資料①【小学生向け教材（高学年）】

この2つのグラフから 分かることはありますか？



出典) 内閣府「男女共同参画白書(令和2年版)」に基づき作成
https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r02/zentai/html/column/clm_01.html



出典) 内閣府「男女共同参画白書(令和2年版)」に基づき作成
https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r02/zentai/html/column/clm_01.html

資料②【中学生向け教材】

男女共同参画の歴史

